

研究・調査報告書

報告書番号	担当
24	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Cognitive function after 11.5 years of alcohol use: relation to alcohol use 11.5年間の飲酒後の認知機能：飲酒との関連	
執筆者	
Iracema Leroi, Jeannie-Marie Sheppard, Constantine G Lyketsos	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
American Journal of Epidemiology 156:747-752, 2002.	
キーワード	
飲酒、認知機能、痴呆、女性	
要旨	
<p>地域住民の 11.5 年のコホート追跡調査で飲酒習慣と認知機能低下の関連について検討した。調査結果は、米国ボルチモアに住む、1,488 人の男女を追跡した Catchment 地域疫学調査研究の一部である。対象者は Mini-Mental State 調査(MMSE)を 3 回 (1981,1982,1993-1996 年) 実施した。対象者はアルコール摂取量より 5 群に分けた。疾病発症は、精神疾患診断統計マニュアル (DSM III) に従い分類した。飲酒量との関連は、2 回、ないし 3 回の MMSE 調査におけるスコアの変化を検討した。その結果、飲酒者では、男女とも非飲酒者よりも認知機能の低下が小さかった。年齢、人種、教育を調整した分析においては、女性で認知機能低下傾向が飲酒者で非飲酒者や多量飲酒者よりも小さかった。結論として、長期の観察研究において、女性においては飲酒習慣は認知機能の低下に関与していないと考えられた。</p>	